「つや姫」栽培管理情報第４号

H26.７.3　農業技術センター技術普及部

「つや姫」の生育状況等

○気温は５月第５半旬から高く推移しており、最高、最低気温ともに高い状況でしたが、６月第３半旬以降平年を下回りました。降水量は６月第３半旬が平年の倍ありましたが、それ以外は平年よりかなり少ない状況が続いています。日照時間は５月は多く推移しましたが、梅雨に入り、６月第１半旬から第３半旬までは少なくなり、第４半旬以降多くなりました。

○４月末、５月始めに移植したほ場の茎数（本/m²）は、移植後 50 日の段階で 400 を超えており、茎数が多く推移しております。

○今のところ目立った病害虫の発生はありません。

■　当面の管理ポイント（７月中旬～7 月下旬）

□生育量にあった穂肥の適期・適量施肥

□適正な水管理（間断灌水）

□病害虫の発生情報に注意して、早期防除を徹底

具体的な対策

□生育量にあった穂肥の適期・適量施肥

食味・品質向上を目標に、穂肥の適期適量施肥を心がけましょう。

体系施肥の場合、「出穂 20 日前」に「窒素成分量 2kg/10a」が穂肥となります。施肥基準等の詳細は、【「つや姫」栽培の手引き】を参考にして下さい。

① 穂肥の施肥時期は遅れないように幼穂確認は早めに！

作況、実証試験の生育データ等をみると、生育進度は平年並みでが、**つや姫の幼穂形成期はコシヒカリより 4 日程度早い見込みです。**

作況試験では、7/2～3 に幼穂形成期を迎える予定です。

早急に幼穂等の生育状況を確認して、穂肥の適期施用を心がけましょう。

特に、有機質肥料を施用する場合は、有機態窒素が無機化するまでに５～７日程度かかるので早めに準備しましょう。

②穂肥の施肥量はやや控えめに！　籾数過剰は厳禁

幼穂形成期の茎数、葉色等の生育状況をみて、施肥量が多くなり過ぎないよう注意して下さい。

穂肥のやり過ぎは籾数過剰につながり、籾数が多くなるほど、登熟障害を受けやすくなり、品質低下の原因となります。

□適正な水管理（間断灌水）

○出穂期までは間断潅水を継続し、新鮮な水の入れ替えやガス抜きを行って根の発達を促し、暑い夏の登熟期間を乗り越えられる稲体をつくりましょう。

水稲作況試験調査結果

○「つや姫」移植後 50 日（農業技術センター作況試験ほ場）

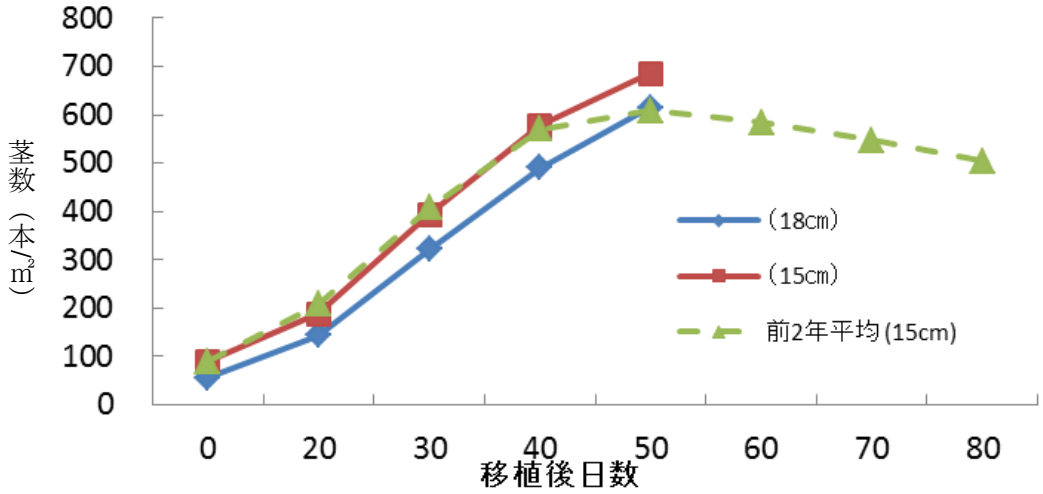

図　茎数の推移

写真１　株間 15 ㎝

写真２　株間 18 ㎝

6 月 30 日　移植後 53 日